

# 主要事業個別シート(第2次実施計画/H27・28年度)

ver.1.01

① 基本事項	計画コード	事業名	部名	建設部
	19086	都市計画道路整備事業(和賀白川線)	室名	道路整備室
	基本施策の大綱	01:快適な都市空間の創造	会計	01:一般会計
	基本施策	09:道路網の整備	款	08:土木費
	施策の方向	01:幹線道路の整備	項	02:道路橋梁費
戦略プロジェクト	-	目	03:道路新設改良費	
事業予定期間	H 17 ~ H 31 年度	主な根拠法令要綱等	道路法、道路構造令	

② 目的・概要	対象	市民及び来訪者
	目的	当路線は県道鈴鹿関線、国道306号、市道亀田川合線、市道亀田小川線で結節された市内環状線として位置づけられており、環状線は本市における産業発展と市民生活の根幹を担う重要な道路ネットワークであり、早期の完成が待ち望まれている。国道1号から県道鈴鹿関線の区間については平成25年度までに開通しており、国道1号から北側部分と亀田小川線を含めた区間を整備するものである。
概要	(北区間) 幅員12m(2車線、両側歩道) 延長L=800m	

		平成27年度	平成28年度	
③ 年度別事業計画	路線測量、詳細設計		用地測量 和賀白川線 A=6.0ha 亀田小川線 A=1.0ha	
	計画額	事業費	11,500千円	18,000千円
		国庫支出金		
		県支出金		
		地方債	10,900千円	17,100千円
		その他		
	予算額	一般財源	600千円	900千円
		事業費	7,300千円	18,000千円
		国庫支出金		
		県支出金		
地方債		6,900千円	17,100千円	
期間内総事業費(H27・H28)①	29,500千円	期間外事業費(H29以降)②	485,000千円	
	総事業費 (①+②)		514,500千円	

				平成27年度	平成28年度	(参考・平成29年度)	
①	名称	整備進捗率(北区間)	活動	計画値	4	5	33
	補足	実施済み事業費/総事業費		単位	%	%	%
②	名称			計画値			
	補足			単位			
③	名称			計画値			
	補足			単位			
④	名称			計画値			
	補足			単位			

事務事業評価シート

H27(主要事業)

① 基本事項	計画コード	事業名	部名	建設部
	19086	都市計画道路整備事業(和賀白川線)	室名	道路整備室
	基本施策の大綱	01:快適な都市空間の創造	財	会計 01:一般会計
	基本施策	09:道路網の整備	務	款 08:土木費
	施策の方向	01:幹線道路の整備	科	項 02:道路橋梁費
戦略プロジェクト	-	目	目 03:道路新設改良費	

② 目的・概要	対象	市民及び来訪者
	目的	当路線は県道鈴鹿関線、国道306号、市道亀田川合線、市道亀田小川線で結節された市内環状線として位置づけられており、環状線は本市における産業発展と市民生活の根幹を担う重要な道路ネットワークであり、早期の完成が待ち望まれている。国道1号から県道鈴鹿関線の区間については平成25年度までに開通しており、国道1号から北側部分と亀田小川線を含めた区間を整備するものである。
概要	(北区間) ・幅員12m(2車線、両側歩道) 延長L=800m	

		27年度	28年度
①	名称	整備進捗率(北区間)	計画値 4
	補足	実施済み事業費/総事業費	実績値 1.4
			単位 %
②	名称	計画値	
	補足	実績値	
		単位	
③	名称	計画値	
	補足	実績値	
		単位	
④	名称	計画値	
	補足	実績値	
		単位	

年度計画				年度実績				
路線測量、詳細設計				路線測量、詳細設計				
④ 事業の計画・実績	事業費	事業費	計画額 11,500	予算額 10,500	決算額 1,600	総人件費 ①	379	
		国庫支出金		0		一般職員人件費 ②	379	平均給与額×③
		県支出金		0		所要人員 ③	0.05	
		地方債	10,900	6,900	1,520	臨時職員人件費 ④	0	
		その他		0		受益者負担額 ⑤		
		一般財源	600	3,600	80	受益者負担率	0.0%	⑤ / ⑥
		再	翌年度への繰越額		5,700			
		掲	前年度からの繰越額		3,200	3,086		
			総人件費		①	379		
			総コスト		⑥	1,979		

⑤ 事業の評価	【事業の成果】	平成27年度の概略設計採用ルートを基に、現場測量を行うにあたり地元との合意形成を図りながら、路線測量(延長L=1020m)を進めてまいりました。当事業は繰り越しており、現在、道路構造令に基づき道路詳細設計を進めております。	総合判定
			<b>B</b>
			まずまず進んだ
	【反省点・課題】	路線測量を行うにあたり、地権者への合意形成に時間を要した。今後は、用地買収を行っていくことから事業進捗に影響が出ないように進めて行く必要がある。	
	【改善の方向性】	道路詳細設計完了時に、関係機関との協議・調整や地元自治会、地権者へ丁寧な説明を行い、事業の進捗を図っていく。	
事業目的の妥当性: 適切		有効性: 見直しの余地あり	最終評価確認者: 道路整備室長 服部 政徳